

農作業特報

魚津市
魚津市農業技術者協議会

品質の高い米づくりに向けて、5月15日を中心とした田植えを継続するとともに、がっちりとした苗に仕上げるため、計画的に育苗作業を進めましょう。

育苗～田植え作業は計画的に

育苗期間の気温や田植えに合わせた育苗計画を基に、元気な苗を植えましょう。

【コシヒカリの育苗作業の目安】

田植え予定日	比重選・種子消毒日	浸種初日	催芽日	播種日	ハウス搬出日
5/10	4/6	4/8頃	4/18	4/19頃	4/22
5/15	4/15	4/17頃	4/25	4/26頃	4/29

※温湯消毒済種子の「比重選」と「種子消毒」はしないでください（浸種作業から始めます）。
 ※穂数確保のため、70株植えに対応できる箱数を準備しましょう（目安：21箱/10a程度）。

健苗育成のポイント

①比重選

- ◆充実の悪い籾や、ばか苗病等の保菌籾を除去する。
 - ・比重：うるち1.13（硫安2.6kg/100）、もち1.08（硫安1.5kg/100）
 - ※硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後は種子を十分に水洗いする。

「温湯消毒済種子」を購入された方へ
 直射日光を避け、風通しがよく、温度変化の少ない場所で保管してください。
 また、ねずみの食害に注意してください。

②種子消毒・浸種

- ◆発芽を揃えるため、十分に吸水させる。
 - ・水温10～15℃で7～10日間程度（特に、浸種初日は水温12.5℃程度に保つ）
 - ・水は1～2日ごとに交換する。また、こまめに袋の上下を入れ替えする。浸種期間の後半は、毎日水を入れ替える。（積算温度で100℃以上（富富富は120℃）が目安：水温×日数=100℃・日以上）

- ・水温が10℃未満では芽の伸びが悪く、不均一となりやすいので注意しましょう
- ・水温が15℃を超えそうな場合は、毎日水の入れ替えを行いましょう
- ・浸種桶は直射日光を避け、温度変化の少ない場所に置きましょう

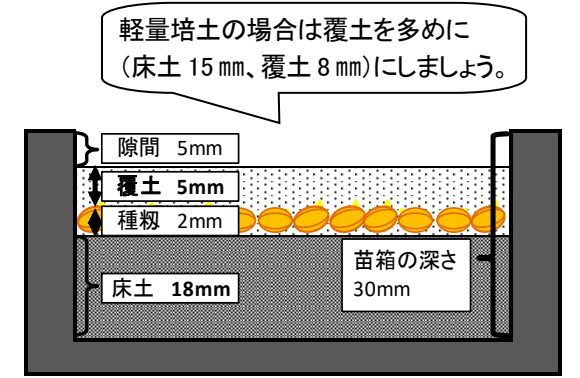
- 「モミガードC水和剤」による種子消毒
- ・処理方法：浸種初日に200倍液に24時間浸漬する
 - ・薬剤は少量の水でよく練って、のり状にしてから、所定の水量で希釈する

③催芽

- ◆温度は30℃で行い、芽の長さは「ハト胸～2mm程度」とする
 育苗器の場合は30℃で1日を基本とするが、芽の伸びに応じて時間調整する。

④は種

- ◆は種量は、乾籾120g/箱を目安とする
 （催芽籾で150g、容積200mlが目安）
 ※は種前に空箱で、種子量を確認する。



は種後のイメージ図(加工床土の場合)

⑤出芽

- ◆育苗器は30℃で2～3日が目安
 - ・育苗器のサーモスタットや温度計が正常に作動しているか、こまめに確認する。
 - ・芽の長さが1cmに揃ったら、ハウスに搬出する。

育苗期間の温度管理

育苗期間中の気温が高いと、苗は軟弱徒長ぎみに、また細菌性病害も発生しやすくなります。ハウス内の温度と水管理に十分注意しましょう。

◆ハウスの生育時期における温度管理の目安

	緑化（2～3日）	硬化期（13～15日）
昼の温度	25℃以下 ※30℃を超える時は、搬出直後でも「すそ」を上げて換気する。	
夜の温度	10℃以上 ※5℃以下の低温が予想される場合（霜注意報）は、ハウス内の保温に努める。	
かん水	・搬出時に覆土を落ち着かせる程度 ・ハウス搬出後は、水分不足や高温による葉ヤケに注意する	・床土の乾きに応じてかん水を行う ・水のやり過ぎに注意（カビや病気の発生を助長し、根の伸びが悪くなる）
	・床土の種類によって水もちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意する。	

注）ハウス搬出後は、寒冷紗などの被覆資材で2～3日遮光を行い、苗の白化を防ぐ。